

未来に生きる児童を育む ICT と学校図書館教育
—コンセプトとコミュニケーションの観点による ICT や学校図書館の活用を通して—

1. 設定理由

今の子どもたちがおとなになって活躍する 2030 年以降の社会では、正解といえない課題に対し、他者と協力して新たな価値を創造していくことが求められている。柏市では、新しい時代を生き抜くために必要な力を「学び続ける力」と捉え、その根底となる「学ぶ意欲と学ぶ習慣」を、すべての子どもたちが身に付けられるよう、授業の工夫・改善や環境整備が進められている。そこで、柏市では「学ぶ意欲と学ぶ習慣」を身に付けるため、ICT 教育と学校図書館教育に力を入れ、全校で授業研究が進められている。また、その達成を図るため、「4C（チャレンジ・コントロール・コンセプト・コミュニケーション）」という評価基準を設け、授業改善を全校で行っている。

本校では、ICT 教育と学校図書館の活用を行い、学ぶ意欲を高める教育を研究テーマとし実践を続けている。

2. 研究仮説

コンセプトやコミュニケーションという観点をもとにした授業改善を行い、その達成手段として ICT や学校図書館を活用することで、学びが主体的になり、学ぶ意欲が向上し、未来に生きる児童を育むことができるだろう。

3. 研究内容

- ICT 活用の実践
- プログラミング教育の実践
- 情報モラル教育の実践
- 学校図書館活用の実践

4. 結 論

○コンセプトやコミュニケーションという観点を持ち、ICT や学校図書館を活用した授業改善が、児童の学びの主体性や学ぶ意欲の向上に繋がった。

東葛支部

柏市立大津ヶ丘第一小学校

井 上 昇

1. はじめに

今の子どもたちがおとなになって活躍する 2030 年以降の社会では、正解と叫ぶことのできない課題に対し、他者と協力して新たな価値を創造していくことが求められている。ある日本の研究機関によれば、10～20 年後には、日本の労働人口の約 49%が人工知能やロボット等に代えることができると言われていて、この時代を生き抜く力が求められています。そのためにも課題に対し、主体的にとりくみ、協働的に物事を解決していく能力が必要とされている。

このように、激変する時代背景のもと 2020 年に学習指導要領が改定される。新学習指導要領では、アクティブラーニングの観点、プログラミング教育などが取り入れられている。

柏市では、新しい時代を生き抜くために必要な力を「学び続ける力」と捉え、その根底となる「学ぶ意欲と学ぶ習慣」を、すべての子どもたちが身に付けられるよう、授業の工夫・改善や環境整備が進められている。そこで、柏市では「学ぶ意欲と学ぶ習慣」を身に付けるため、ICT教育と学校図書館教育に力を入れ、全校で授業研究が進められている。また、その達成を図るため、「4C（チャレンジ・コントロール・コンセプト・コミュニケーション）」という評価基準を設け、授業改善を全校で行っている。

本校では、「学ぶ意欲を高める教育」「人と関わることで学びを主体的にする」を研究テーマとして、実現のため、4C の中でもコンセプト・コミュニケーションを授業の核にし、日々実践を続けている。また、柏市の情報教育推進校、パナソニックワンダースクールプロジェクト校、パナソニック教育財団一般助成校などとして、本校の実践を市や全国の学校に広めている。

2. 本校の実態

平成 26 年度の本校の学力・学習状況調査の結果分析では、学力及び学習意欲の低下が著しかった。特に、学習の見通しやコミュニケーション能力に係わる項目の評価が低かった。このままでは、本校の児童が将来仕事に着いたとき、必要とされる力を身に付けることができないと考えられた。そこで、「学ぶ意欲を持った児童の育成」、「人との関わりの中で学びを主体的にする児童の育成」という研究テーマのもと、段階的に研究主題を設定し実践している。

平成 27・28 年は「主体的に学び『わかる・できる』喜びを実感できる授業づくり～ICT や学校図書館の活用を通じた教材教具の工夫～」とし、平成 29・30 年は「学び合いを通し、みんな考え、表現し合える児童の育成～ICT や学校図書館の活用を通じた『わかる・できる』喜びを実感できる授業づくりをめざして～」という研究主題を設定し、4 年計画で研究を行っている。この研究主題を達成する手段として柏市の 4C の中でも「コンセプト・コミュニケーション」に着目した授業改善や ICT と学校図書館を取り入れることとした。

また、この研究主題を達成するためには、本校職員が一丸となり実践にとりくむ必要があり、そのためにも、「誰もが実践できる」ことが必要となる。しかし、本校の教員が ICT 活用や学校図書館活用に長けているかというところではない。アンケートを取ると、「授業に自信がない」「ICT の使い方がわからない」「学校図書館を使った授業をしたことがない」という教員が多くなっている。そこで、この問題に対する対策として、どの教員でもできる ICT や学校図書館を活用した授業のスタンダード化も行っている。

本校の研究は補足資料 1 のようになっている。

3. 研究目標

本校の研究主題の達成、及び新しい時代を生き抜くために必要な力を持った児童の育成のために、以下のことを目標とし、実施していく。

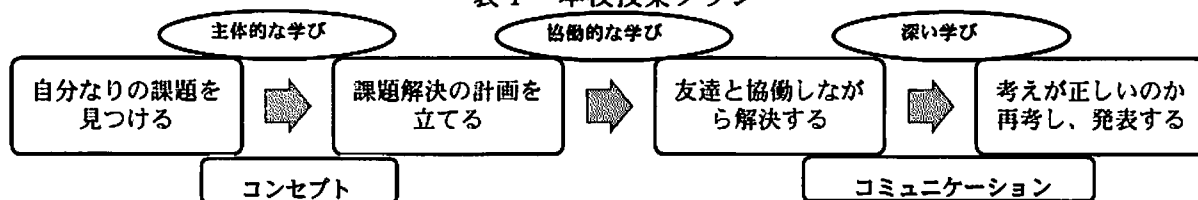
コンセプトやコミュニケーションという観点をもとにした授業改善を行い、その達成手段として ICT や学校図書館を活用することで、学びが主体的になり、学ぶ意欲が向上し、未来に生きる児童を育むことができるだろう。

4. 研究方法

授業の中にコミュニケーションとコンセプトを取り入れた授業改善を行っていく。その方法として、以下の方法が考えられる。

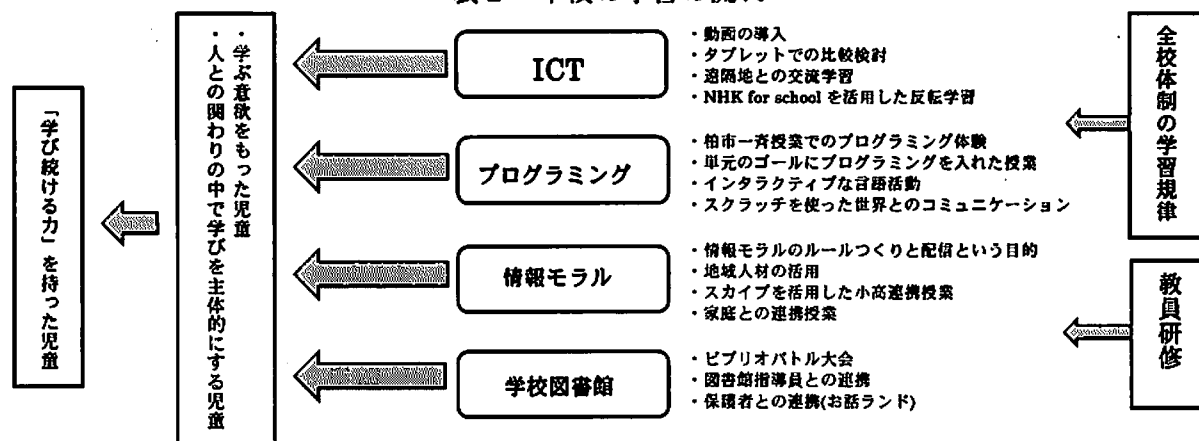
1. 授業をアクティブラーニングの観点で計画していく。

表1 本校授業プラン



また、上記の学習の流れを達成するために、①ICT活用②プログラミング教育③情報モラル④学校図書館の活用の4つの手段とそれに伴う方法で実践を行っている。

表2 本校の学習の流れ



本校の実践の根底には学習規律がある。そこで、教室の前に「大一小学習のきまり」（補足資料2参照）を掲示し授業を行って、落ち着いた環境の中で授業をするように心がけている。

また、ICT や学校図書館の使用方法は「先生が使い、知識を深めていく」ではなく、「先生も子どもも使い、知識を深めていく」活用方法にしていかなければならぬ、仮説を実証するため、表3・4のようになっていくように授業を計画していく。

表3 今までのICT・学校図書館活用

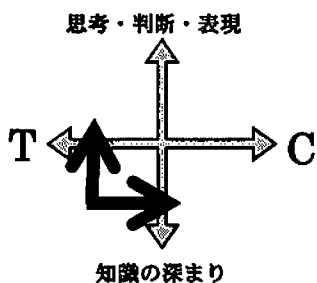
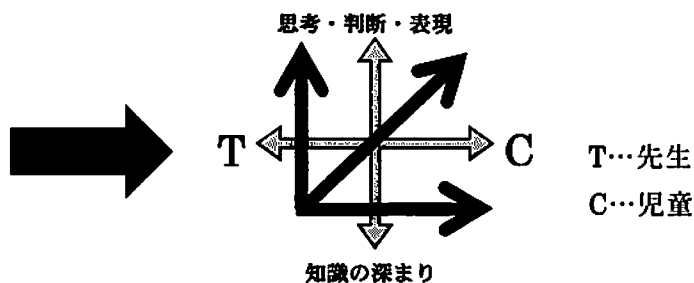


表4 今後必要となるICT・学校図書館の活用



(3) 情報モラル教育

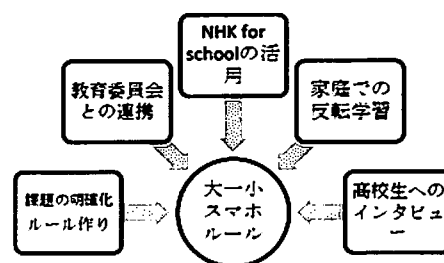
未来を生きる児童にとって、正しい情報を見極め、付き合っていく力が必要になる。そのため、情報モラルの授業も推進していく必要があり、本校では、ICTの推進と合わせて、情報モラル教育も推進している。5・6年生に関しては、情報モラルのテストの実施や保護者会での啓発活動なども行っている。そこでも、コンセプトとコミュニケーションを取り入れた、授業となるよう計画し、児童が自らの課題を設定し、主体的に学習できるようにした。

5年の総合的な学習の時間を使い、「大一小スマホルールを作ろう」という学習を計画した。最終目標を「大津ヶ丘第一小学校の情報モラルのルールを作る」とし、コンセプトとコミュニケーションを取り入れ、それを実行するための5つの手立てにより、実践した。

1) 目的の明確化…ルール作りという学習課題設定

表8 本校での情報モラル手立て

- 2) 地域の人材活用…教育委員会との連携
- 3) 映像資料活用…NHK for schoolの活用
- 4) 家庭との連携…反転学習の実施
- 5) 高校生へのインタビュー…小高連携授業



この手立てをもとに授業を実施していった。

<目標の設定>

まず、最近のスマホに関するトラブルについて事例を紹介し、大一小スマホのルールが無いといことを知らせ、「みんなで協力して作ろう」と投げかけた。また、作成したルールは、本校HPや柏市で紹介されることを伝えた。どこかに送ったり紹介されたりするという学習スタイルは、児童にとってなじみがあり、他教科でも意欲が高まる活動である。今回も、自分たちのルールが載るといことで、意欲的になる児童が多かった。ルール作りやHPの掲載という明確な課題がわかりやすく、どのようなことをすればいいかという学習への見通しを持つことができていた。

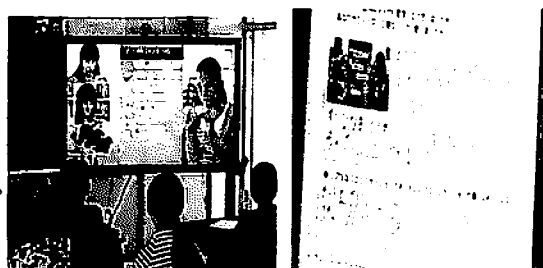
<教育委員会との連携>

SNSを体験したことのない児童もいるので、匿名性の怖さという視点で学習を計画した。そこで、「柏仲良し掲示板」を活用し仮想SNS体験をさせた。掲示板内にクラスのいいところを書き込んでいく。その際、教育委員会の方にも参加してもらい、掲示板を荒らしてもらった。授業後、自分の発言には責任があると実感した児童が多かった。



<映像資料活用>

児童は、トラブルに巻き込まれたことが少なくトラブルを仮想体験できる番組として、NHK for schoolの「リアル・スマホ・ストーリー」を活用して授業を行った。番組内容はSNSでの仲間外しである。番組の一斉視聴後、個人の感想をグループに持ち寄り、自分だったらどのようにするか。どの

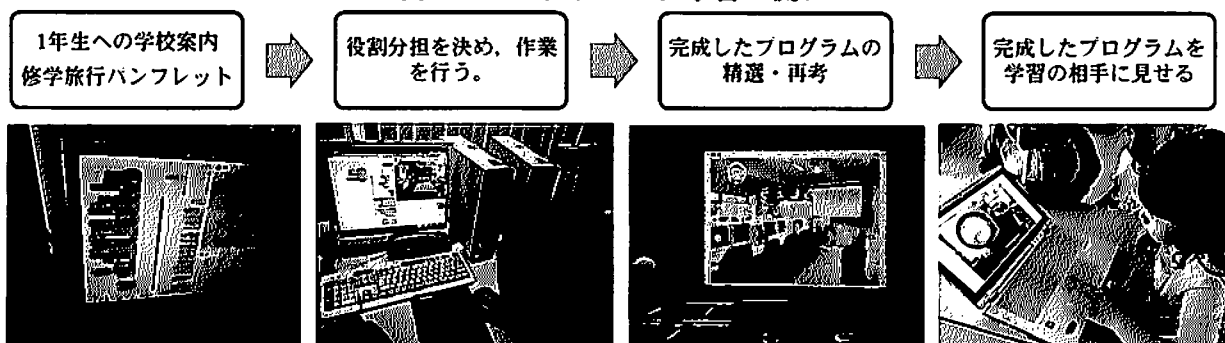


ムを考えていった。その際、写真を撮る人、1年生の担任や在校生にインタビューする人、プログラムを組む人を明確に分けてから作業させた。

プログラムは、4年生が一斉に行うものをベースに作らせた。プログラムを組む際、何度も繰り返しながら命令を入力したり、相手のことを考えながらプログラムを再考したりした。

授業後、「今度は柏市の紹介をするプログラムやお母さんを助けてくれるプログラムを組みたい」など、学習に対して意欲的になる児童が多かった。

表7 プログラミング学習の流れ



③修学旅行デジタルパンフレットを作ろう。

5年生に修学旅行を紹介するという目的で授業にとりくんだ。作業で困ったことがあると、NHK for schoolの「Whyプログラミング」を見たり、友達に教えてもらったりした。また、スクラッチのコメント欄を使い、世界中の人たちと通信し、アドバイスを求める活動も行った。授業は、学校紹介の時と流れを同じにした。変更した点は、役割分担をより複雑にして、「写真の使用許可をもらう人」「画像の編集をする人」を入れて授業を行った。

完成した作品は、対象である5年生や本校職員、保護者に見てもらい評価してもらった。

今までは、プレゼンテーションでの発表など相手を前にして伝えるという学習が多かった。しかし、今回は、見る側が自由に操作し、好きなところを見ることができた。そして、その中でいかに情報を伝えられるかが大切になった。この、相手を考えた活動が学習に対する見通しを持たせたり、学びの目的が主体性を生んだりした。また、話し合いや教え合い、インタビューなどでコミュニケーションが生まれた。



<授業後の評価>

授業後のアンケートから児童は「プログラミングが楽しい」、「またやりたい」と感じており、また「将来に役に立つ活動」だと考えていることが分かった。これは本校だけでなく、柏市の他の学校でも同じような結果となり、多くの児童がプログラミングは大切であると感じ、意欲的にとりくむことができたことがわかる。参観者からこのインタラクティブ的な発表スタイルが今後の授業モデルになるのではないかと評価をいただくことができた。また、研修会などで、参加者に実践を紹介すると、「できそう」と言われることが多い。中には、「この授業をモデルにして、社会の歴史でクイズを作ってみる」と言っていた先生もいたように、本校のプログラミングの授業スタイルが柏市の多くの教員に伝わった。

(2) プログラミング

なぜ、今からプログラミングを行うのかというと、私たちの身の回りにはお掃除ロボットや自動販売機など、実は様々なプログラムが溢れている。そのような世界で生きる子どもたちにとっては、あたり前なことであり、学校でリテラシー教育として扱う必要のあるものとして考えられる。

プログラミングを行うことで、プログラミング的思考だけでなく、プログラムを組む最終的な目標に向かって作業する課程や、グループで協働的に学習したり、わからないことを世界中の人に聞いたりする活動が本校のめざすものとして当てはまったので、授業に取り入れ、実践を行っていくこととした。

① 柏市のプログラミング教育

柏市では上記の考えのもと、柏市の全ての4年生に「総合的な学習の時間」で2時間実施している。1時間目は、なぜプログラミングが必要なのか考えさせた、2時間目は実際にプログラミングを体験させた。ここでは、スクラッチを使い、写真のように、猫のキャラクターを左右に動かすプログラムを組んだ。

実際に行くと、児童は、ただ右に動かすだけだと思い、「10歩進む」という命令を入力するが、このままではわずかしか進まない。ここで、なぜ進まないのかと考えることになる。児童は、何度も試行錯誤を繰り返しながら、猫を動かしていく。この試行錯誤や物事を順序立てて考えることがプログラミング的思考のベースとなり、この経験が柏市の小学生のプログラミングの基礎となっている。(表5参照)



プログラミングは、4年生で学習したものをベースに授業デザインを考えていった。

表5 プログラミング的思考イメージ

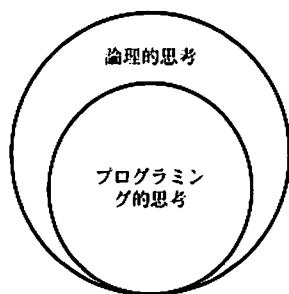
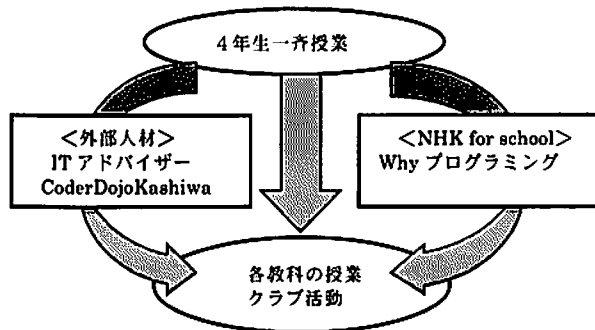


表6 プログラミング教育の授業デザイン



② 6年 総合的な学習の時間「学校案内をしよう。」

1・2年生が学校探検を行う際、学校を紹介する案内板のようなプログラムが組めないかと考え、本授業が始まった。授業の流れは表6のようにになっている。授業では、学習の成果を見せる対象が誰なのかを明確にするために、「どこを紹介したいか」「誰に紹介するのか」という相手意識を大切にされた。すると、「1年生だから楽しめた方がいい」「ひらがなの方がいいのではないか」など、相手のことを考えて話し合う姿が多く見られた。

次に、プログラムを組むために、自分たちのグループが必要な写真を撮りに行き、プログラ

6. 授業実践

本校の研究主題を達成するため、コンセプト・コミュニケーションに着目した授業実践の中で、最も効果的であったものを紹介する。その他の本校実践は補足資料3に載せている。

(1) ICTを活用した授業

①5年生の社会「沖縄県の事をCMにして広めよう」

まず、学習を主体的なものにする工夫として、沖縄の大学生から「沖縄を紹介するCMを作って、沖縄のことを広めてほしい」という依頼の動画を導入で流した。その際、沖縄の大学生には、自己紹介を沖縄の方言で、内容には沖縄の食べ物なども入れてもらった。その動画を見た児童は、沖縄への興味が高まり、口々にCMの内容を考えたり呟いたりしていた。また、沖縄のことを広めるため、NHK for schoolの「未来広告ジャパン」にCMを投稿するという学習の目標も提示した。この導入で児童は学習に見通しを持ち、課題を考え始めることができた。

その後、児童に自分の興味を持ったことを付箋に書かせ、何を紹介するか、ピラミッドチャートを使いグループで協議させた。この協議で児童は対話を繰り返し、自分たちのグループの課題を精選していった。

課題設定後は、グループで調べ学習を始めた。インターネットのNHK for school「未来広告ジャパン」内のクリップ動画か沖縄県のHPや図書館指導員に協力してもらい、学年のブックトラックに沖縄や日本の地理や文化の本を用意してもらい、沖縄や他県のことを比較しながら調べることができる環境を作り、調べ学習を行った。

調べ学習後、CMにまとめていく。「ロイロノート」を使用し、CMを作らせた。ここで、授業を深める工夫として、「本当に自分たちの調べた情報を全国の人は知りたいのか」という発問を行い、完成したCMをグループ内で批評しあい、CMを再考させた。

そこで出た疑問を解決するために、沖縄の大学とスカイプで通信し、大学生に質問をした。沖縄の人しか知らないような情報や教科書に載っていない情報を聞きだし、CMの内容を精選した。その後、完成したCMをNHKの番組に投稿した。



<授業後の評価>

児童からは、「授業の初めの動画が面白くて、やる気になった。」「今まで知らなかった沖縄のことを知ることができた。」「自分たちが調べたこと以外のことを知ることができてよかった。」「スカイプやCM作りが楽しかった。」などの感想が出た。

授業を参観した教員、NHK関係者からは、「ダイナミックな授業展開になっていた。また、再考させることがよかった。」「スカイプでの質問する際、何を質問するか明確になっていた。教科書に載っていないことを聞き出せていた。」などの評価を受けた。

自分の課題として捉えられるような課題設定や学習の見通し・課題解決計画(コンセプト)や、グループでの協働学習、再考などによる深い学び(コミュニケーション)が、児童の主体的な学びや学習に対する意欲につながったと考えられる。また、この活動を行う際、ICTの活用は効果的であると考えられる。

高校生にとっても効果的な実践であったと評価を受け、児童や保護者にも効果的であった。

(4) 学校図書館の利用

本校では、9類を読書センター、0～8類を情報センターに配架し、2部屋でバーコードの処理を行い、読書や学習が行えるようにしている。また、各学年の廊下にブックトラックを置き、学年の教員や図書館指導員がその单元にあった資料を集めて、各单元で学校図書館を学習の中で活用し、並行読書を行っている。また、図書館指導員が T2 として授業の支援に入り指導を行っている。動画の導入などでも協力を依頼している。

本校の目標を達成するため、情報を取捨選択する一環としてのリテラシー教育のほかに、本の情報を相手に伝える学習なども学ぶ意欲と主体性に効果的であると考え授業を実践した。

①5年生 国語「ビブリオバトル大会をしよう」

ビブリオバトル大会で優勝した人の本が図書館の新刊になるという目標を伝え、そのために行わなくてはならないとりくみを児童に計画させた。児童は自分が好きな本を新刊にしたいので、進んで本を選び、調べまとめていった。

まず、ビブリオバトルとは何か、教員と図書館指導員でデモンストレーションをした。

その後、グループで練習をし、班の代表を選んだ。選ばれた発表の質を上げるため、グループ内で作戦会議を設け、発表をよりよいものに精選していった。本番では、様々な切り口から本の紹介が行われた。

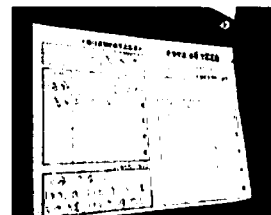
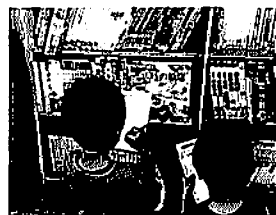
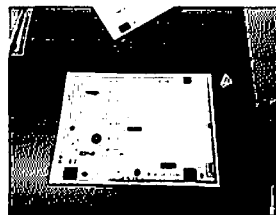


<授業後の評価>

ビブリオバトル後、児童は口々に「授業が楽しかった。」「もう一回やりたい。」などと言っていた。また、宿題でビブリオバトルをし、本の紹介をしたり、図書館に行き、図書館指導員と本について話をしたりする児童が増えた。本の貸し出し冊数も増え、本に対する抵抗感が消えていった。

②2年生 国語「図書館で本を探そう」

学校図書館指導員が T2 とし、授業を行った。学校図書館にどのような本が配置されているかを十進分類法とともに再確認し、実際に見て回りながら「図書館地図」に書き込んで完成させた。その後、グループで課題の本を協力して探したり、自分の読みたいテーマの本を個人で探したりする活動を行い、本の探し方への理解を深めた。



<授業後の評価>

この授業後、図書館指導員が尋ねると、その本が何類であるか進んで答える児童が多かった。また、本を借りに行く児童が増えたり、授業中にわからないことがあると「本を使って調べたい。」などと答えたりする児童も増えた。

以上のように学校図書館でもコンセプトとコミュニケーションの観点を持った授業は児童の

ようにしたらよいか話し合わせた。

<家庭との連携・反転学習>

情報モラル教育では、家庭との連携が必要不可欠である。今回は家庭学習として、「リアル・スマホ・ストーリー」の自分のグループが担当する番組の放送回を決め、授業前に保護者と一緒に家庭で見てもらい、感想を話し合い、ワークシートに児童の考えと保護者の考えを記入してもらった。その後、学級の学習班で持ち寄った感想について話し合い、ピラミッドチャートにまとめ、それぞれの班のルールを作っていた。

この活動により保護者への啓発活動にもなった。また、授業の前に話し合うことで、学習に意欲的にとりくめる児童が多くいた。

<高校生へのインタビュー>

児童は番組を活用することで、仮想体験をし、危機的状況の知識を得ることはできた。しかし、実際に体験していないので、ルールを作ると児童の実態に合わないものができてしまった。おとなの考えを押し付けてしまうと、児童の学習への意欲や主体性を奪ってしまうことにつながる。そこで、スマホを頻繁に使用し、年齢の近い高校生に協力を依頼した。

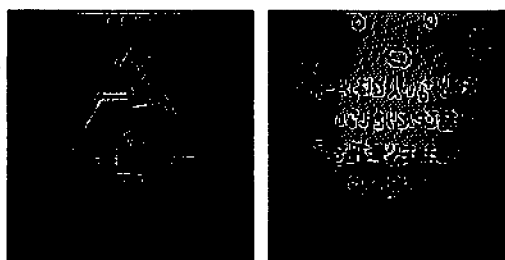
今回は近隣高校の生徒に Skype を使ってインタビューをすることにした。

インタビューの際、話し合いの観点を持つために、小学生と高校生のグループに「リアル・スマホ・ストーリー」の同じ放送回を見てもらい、番組についての考え方や危機的状況への対処法をインタビューした。インタビューで、高校生は「困ったら、すぐに相談した方がいい。」「課金はしてもいいがお家の人と一緒にやらないといけない。」「ペアレンタルコントロールが必要。」「危険な目に合うこともあるから知らない人には絶対について行ってはいけないし、連絡も取ってはいけない。」などの体験談や考えを答えていた。

<授業後の評価>

今回の授業を行うことで、情報モラルに関する考え方に変化がおき、初めに考えた情報モラルのルールが、より実践的なルールができた。完成したルールとなった。完成したルールは補足資料4のようにになっている。

今回、授業を参観していただいた方からは、「今回の Skype を活用した授業は、小学生にとっても高校生にとっても問題に対して考えるきっかけになったのではないかなと思う。」「小学生と高校生で同じ番組を見て、それについて話し合うことが良かった。同じものを見たことで、小学生と高校生との問題の見方の違いなどに触れることができていた。初めて見た実践だった。」



以上のように学校図書館でもコンセプトとコミュニケーションの観点を持った授業は児童の学習の意欲と主体性を高めることができていた。

6. 成果と課題

(1) 成果

授業の後のアンケートからは、学習の目的を明確にすることへのわかりやすさや自分の課題を設定し、計画する活動での主体性などに関する高評価な回答が多い。また、コミュニケーションにより学習に深みが増したという回答も多い。このように、学習に対して見通しを待たせることと対話的な活動が、児童の学習意欲を高め、学び続ける意欲を育てていくことにつながっていくと考えられる。

また、「ICT や学校図書館を使った学習は好きですか」という質問に対する結果は以下のようになった。

表9 ICTを活用した学習に関する調査

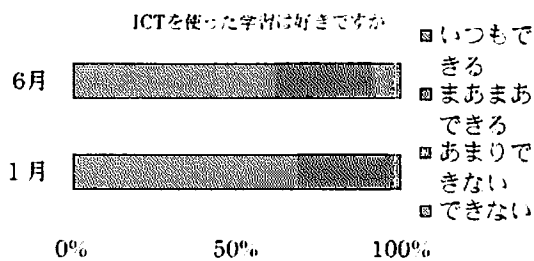
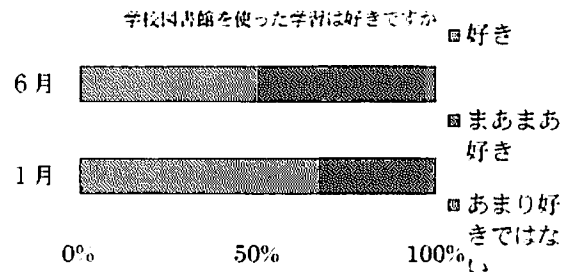


表10 学校図書館を利用した学習に関する調査



ICTと学校図書館への意欲が高まっていることがわかる。特に5年生は、使用頻度も高く、「もっとICTや学校図書館を利用したいか」という質問に対しては、以下のような結果となった。

表11 ICTの使用希望に関する調査

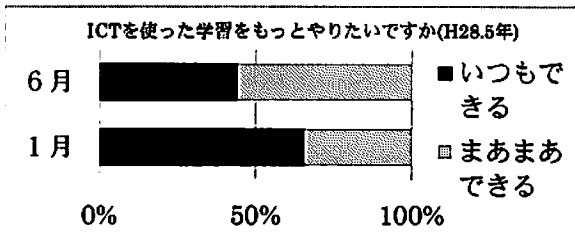
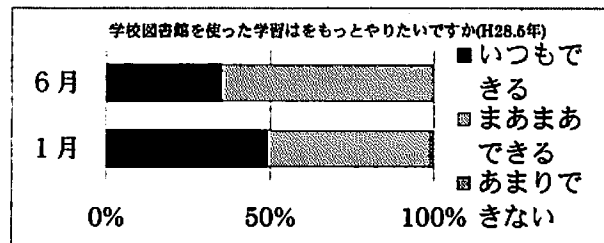


表12 学校図書館の使用希望に関する調査

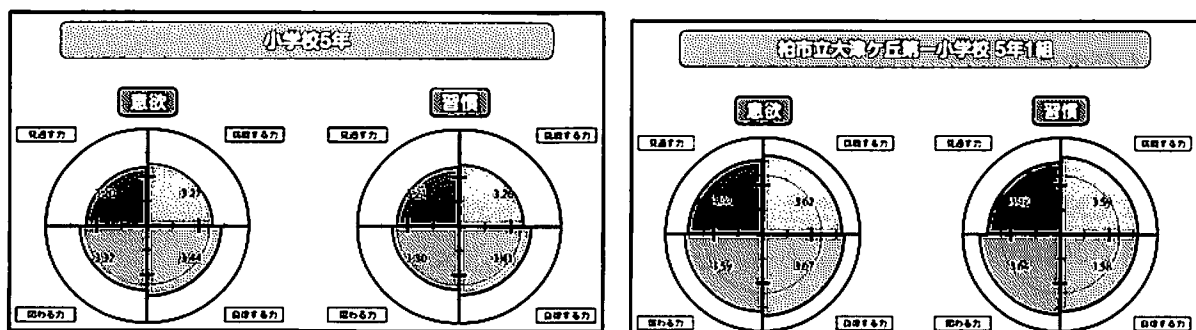


使用頻度が上がるにつれ、「使ってみよう」という感覚から、「この学習ではノートの方がいい」などと選択できるようになっている。特に高学年では、そのようなことをアンケートに書く児童がいた。

本校でも5年生はICTや学校図書館を活用した授業を体験している割合が高く、ICTや学校図書館の活用に意欲的な児童が多い。また、ICTや学校図書館を使った学習は好きであるという項目も全校で高く、児童は進んで学習に参加している。

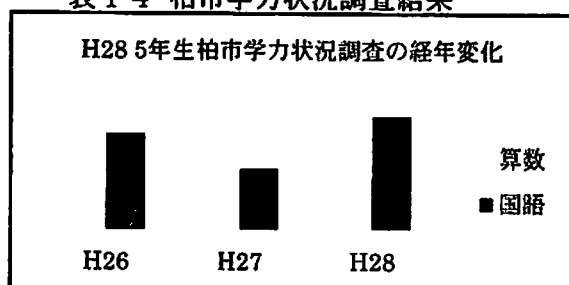
また、4Cに関わるアンケートでは以下のような結果となった。

表13 柏市と本校(5年1組)の4Cにかかわる調査



4C についての結果を比較すると、柏市の 5 年生の平均と本校 5 年 1 組の比較では、全体的に有意差が出ていたが、特に見通す力・関わる力で有意差が出ている。以上のことから、コンセプトやコミュニケーションの観点を持った授業を行うことで、児童の学習に対する意欲や学びの主体性は高めることができたと考えられる。また、その手段としての ICT や学校図書館の活用は有効であり、さらなる意欲や学びの主体性の向上が見られた。

表 1 4 柏市学力状況調査結果



柏市の学力調査の結果でも変容が表れた。コンセプトとコミュニケーションの観点を用いた ICT と学校図書館を積極的に行った平成 28 年の 5 年生は、前年度(4 年生時)と比べると、6 ポイント上がっている。特に、ICT を活用した学習に関してポイント上がっていた。柏市の過去のデータと比べても、

ICT を使っていない学習では正答率が 3 割程であった問題に対し、6 割の正答率があった。

以上のことから、ただ、ICT や学校図書館を使うのではなく、コンセプトとコミュニケーションの観点がある学習の中に ICT や学校図書館を取り入れることは児童にとって、意欲を高め、学習を主体的なものにするのに効果的であることがわかった。

また、柏市の教員に関するアンケートで、自信をもって ICT を活用した授業ができると回答した本校教員が、平成 26 年に比べ、平成 28 年では 9.6 ポイント上昇している。また、ICT の使用状況が大幅に増えている。また、様々な学年で ICT や学校図書館の実践が行われている。

(2) 課題

児童は、意欲的に授業に参加している児童が大幅に増え、学力テストの点数まで伸びている。しかし、各クラスには、授業に意欲的に参加できないと言っている児童がまだいる。その児童たちへの個別の支援の方法を考えていかなければならない。また、学校図書館の活用に関する調査で評価が下がってしまった学年もある。その学年の教員の考察や児童のアンケートでは、「情報量が多いインターネットの方がいい」、「調べるのが大変」などの回答があった。正確性や、情報の信頼度などリテラシー教育や学校図書館の楽しさを伝える教育をしていかなければならない。

今回は、私自身平成 27 年度から 3 年間同じ学年を持ち指導することができたので、系統性のある ICT や学校図書館の活用ができた。今回、全校でとりくんだ成果であり、他の学年でも、活用が増えてきているが、1 つの学年では、指導に限界があり、全校、全学年で系統だった年間計画や「授業のスタンダード化」が必要である。そこで、今まで本校で行われた実践をまとめてある研究紀要や ICT 活用表を活用し、誰でもできる授業のスタンダード作りをし、来年度の公開授業に備えていく必要があると考えられる。

7. おわりに

本研究は、本校の児童が「学びたい」と思えるような工夫はないかというところから始まった研究である。そのため、本校職員が一致団結して行った成果である。本研究は一人ではできないことが多く、本校校長をはじめ本校職員、本校の校内研究会の講師である柏市教育委員会の佐和伸明先生・岩田将英先生、NHK の番組関係者や青少年制作本部の皆様、大学関係者の皆様のおかげでできた研究である。心からお礼の意を述べたい。

資料

校訓

豊かで
あたたかく
たくましく

学校教育目標

豊かな人間性と創造性を備えた児童の育成

目指す児童像

- ・よく考え進んで学習する子
- ・心豊かで思いやりのある子
- ・進んで体をきたえる子



学びづくりプロジェクト

○学習習慣を身に付け、学習意欲を高め「すすんで学び、わかる・できる喜びを実感できる子」を育てる

- 学習習慣の定着
 - ・家庭学習 ・学習のきまり ・「ステップアップ教室」 ・ユニバーサルデザイン活用
- 文字学習
 - ・ノート指導 ・学校図書館活用 ・「6年間で500冊」 ・「タイピングマスター」
- 指導法の工夫
 - ・算数のTT、少人数指導 ・ICT活用
- 体験学習
 - ・イネの栽培、カブづくり ・校外学習 ・学区たんけん ・スーパー見学 ・参道教室

校内研修 (H29)

- 「学び合いを通し、みんなで考え、表現し合える児童の育成 -ICTや学校図書館の活用を通した『わかる・できる』喜びを実感できる授業づくりをめざして-」

教師の姿勢

- ・個を大切に、子供一人一人の実態に基づいた適切な支援に努め、子供・保護者に安心感を持たせる。
- ・互いの良さを認め合わせ、集団への所属意識を高める。

心づくりプロジェクト

○集団生活を通じた個の自立を目指すとともに、思いやりのある温かな心を育む

- 基本的な生活習慣
 - ・「あじさい」運動 ・「よい子の一日」 ・「スマホの使い方10ヶ条」 ・清掃指導
- 交流活動・人間関係づくり
 - ・朝の歌 ・音楽集会 ・集団登下校 ・「一チャレ」
 - ・1年生を迎える会 ・「ふれあい遠足」 ・「がっこうたんけん」 ・「こうえんたんけん」 ・「大津一小まつり」 ・大津中との交流 ・ピアサポート ・いじめ防止・対応

重点目標

一人一人の「やればできる」体験を充実させ、根気強さを養う。
(みんながつながる大津一小 -あいさつ・歌声・発声で気持ちを伝える-)

体づくりプロジェクト

○安全で、健康かつ活動的な学校生活をおくることができる態度や体力を養う

- 体力向上
 - ・特設部活動 ・器械運動 ・縄跳び運動 ・持久走
- 安全教育
 - ・避難・引き渡し訓練 ・交通安全指導・教室 ・防犯教室 ・薬物乱用防止教室 ・食物アレルギー対応
- 健康な体づくり
 - ・う歯治療率向上 ・健診結果の活用 ・栄養指導 ・歯科指導

連携プロジェクト

○学校教育活動への理解を図り、学校・地域・保護者が連携する

- 教育活動情報の発信
 - ・教育課程説明会・授業参観 ・HP・「すくすくメール」 ・学校・学年だより
- ニーズの把握
 - ・学校評議員会議 ・教育ミニ集会 ・教育相談 ・教育活動アンケート ・学校評価
- 連携・協力活動
 - ・落ち葉ボランティア ・交通安全推進隊 ・草刈り・プール清掃 ・ペンキ塗り ・「おはなしランド」

ICT活用表

No	活用内容	難易度	使用者	端末	学年	教科
1	表現運動。魚の動きをプロジェクタで見せて、真似をした。よい子を紹介し	高	教師	タブレットPC	1年	体育
2	動画を撮影し、授業の導入で流した。「角柱と円柱の体積」	高	教師	ぼうけんくん	全学年	算数
3	前転。自分の動きを遅延再生ソフトで見て、動きのポイントを確認した。	高	教師	タブレットPC	1年	体育
4	導入(動画)。自作の動画による導入(iMovieなど)	高	教師		全学年	
5	放送委員会。ムービーメーカーで番組作り。	高	教師	PC室		
6	「沖縄のくらしのCM」未来広告ジャパン内のページにCMづくりがあり、CMを作った。	中	教師	iPad	5年	社会
7	「けんかした山」読み方の提示。上手な読み方の提示。	中	教師		1年	国語
8	2年生のデジタル教科書を活用して「くり上がり」と「くり下がり」の学習をした。	中	教師	教室PC	特支	算数
9	「広さを調べよう」面積のはかり方を考える。	中	教師	教室PC	4年	算数
10	「かたちあそび」グループで作った作品を写して表示した。(写したら次の物をどんどん作る)	低	教師	ぼうけんくん	1年	算数
11	「あきとふれあおう」落ち葉、木の実を並べて絵を作り、できたら写す。→写したら、次の作品を作る。→あとで皆の作品を提示	低	教師	ぼうけんくん	1年	生活
12	朝顔を拡大して観察。よい作品を提示。	低	教師	ぼうけんくん	1年	生活
13	「並べ方と組み合わせ方」考えを写真にとり比較(樹形図など)	低	教師	iPad	6年	算数
14	フラッシュカード	低	教師	教室PC	1年	算数
15	NHK for Schoolの動画を見せて考えさせた	低	教師	教室PC	全学年	道徳
16	音楽集会の練習の様子を撮影した。	低	教師	iPad	全学年	音楽
17	全校朝礼の話に関わる資料を提示した。(絵画、絵本)	低	教師	iPad	全学年	集会
18	再度確認したい板書を撮影し、表示した。(図工や新聞など)	低	教師	教室PC	3年	全教科
19	作業工程を映し、見やすく表示した。録画しておき、再度映す事もした。	低	教師	ぼうけんくん	3年	図工
20	はかりの目盛りを見やすく表示した。	低	教師	ぼうけんくん	3年	算数
21	デジタル教科書を使った社会・算数	低	教師	教室PC	特支	社会
22	「生き物はっけん ○○のかいかた」虫の飼い方や動きの動画を見せ、理解を深める。	低	教師	教室PC	2年	理科
23	NHK for School たいいくの助(投げる運動)	低	教師	教室PC	1年	体育
24	NHK for School かさじぞうのお話	低	教師	教室PC	2年	国語
25	音読発表会の様子を録画して振り返りに使う。	低	教師	iPad	2年	国語
26	おもちゃ作りのお手本を動画で撮っておき児童に見せる。	低	教師	タブレットPC	2年	国語
27	朝の計算タイムなどフラッシュカードを使った。	低	教師	教室PC	2年	算数
28	「一年生に向けて物語りを書こう」NHK for School「読み書きのツボ」を視聴し、構成を考えるヒントにした。	低	教師	教室PC	6年	国語
29	NHK for School「歴史にドキリ」を視聴	低	教師	教室PC	6年	社会
30	NHK for School「筋肉、体のつくり」	低	教師	教室PC	4年	理科
31	NHK for School「星、月の動き」	低	教師	教室PC	4年	理科
32	デジタル教科書 授業掲示物	低	教師	教室PC	1年	算数
33	「情報モラル」ITアドバイザーとコラボして柏市なかよし掲示板をつかい、クラスのいいところを書き込む	高	教・児	PC室	5年	道徳
34	「わたしの町はっけん」体験したわかったことを「はっぴょう名人」で作成し発表した。	高	教・児	PC室	2年	生活
35	クリスマスカード作り ジャストスマイルの「お絵かき」でカード作成した。	中	教・児	PC室	2年	図工
36	クリスマスカード(冬休みのしおり表紙)作成	中	教・児	PC室	1年	

ICT活用表

No	活用内容	難易度	使用者	端末	学年	教科
37	「1年生をむかえる会」で児童が全校クイズをタブレットで出しました。	中	教・児	タブレットPC		集会
38	「学校の紹介をしよう」iPadロイノートで学校紹介をつくり、発表する。	中	教・児	iPad	5年	国語
39	「わたしの町はっけん」町たんけんに行き、各場所の様子をとった。	低	教・児	ぼうけんくん	2年	
40	中～高 NHK for Schoolの「メディアのめ」で、物語の構成を作る	低	教・児	教室PC		国語
41	面積 デジタル教科書で図形を分割したり、くっつけたりして面積を求める	低	教・児	教室PC	5年	算数
42	NHK for School「はりきり体育の助」鉄棒・長縄のコツをつかませるのに活用	低	教・児	教室PC	特支	体育
43	部活「ウゴトル」でスロー再生をする	低	教・児	ipad	部活	
44	発音の確認を本人とできる。	低	教・児	ぼうけんくん	特支	
45	「一年生に向けて物語りを書こう」マッピングや構成のよくかけた児童のものを写真にとり、スクリーンに映した。	低	教・児	iPad	6年	
46	「沖縄のくらしのCM」ムービーメーカーをつかいCMをつくる	高	児童	タブレットPC	5年	社会
47	夏休みのしおりの表紙を作った。(ペースは作成済み)	中	児童	PC室		
48	国語「学級新聞をつくろう」コラボノートで学級新聞作成	中	児童	PC室	4年	国語
49	自分の興味ある職業についてコラボノートで新聞を一人ずつ作成。中・高学	中	児童	PC室	4年	総合
50	「千葉県PR大作戦」千葉県について紹介したものを調べる	中	児童	タブレットPC	4年	総合
51	「千葉県PR大作戦」はっぴょう名人にてスライド作成	中	児童	PC室	4年	総合
52	「千葉県PR大作戦」写真、動画撮影(スライドで使用)	中	児童	iPad	4年	総合
53	「クリーンアップ大作戦」コラボノートでクリーンマップを作成	中	児童	PC室	4年	総合
54	自分の関心のある職業についてインターネットで調べた。	中	児童	PC室	4年	総合
55	「CMづくり」(食料自給率)ロイノートを使いCMにまとめる。NHK for Schoolをつかい調べる	中	児童	iPad	5年	社会
56	「マット運動」動画を撮り、技のポイント確認。曲を入れ、曲に合わせてマットの集団発表	中	児童	タブレットPC	6年	体育
57	算数ランチ 復習	低	児童	PC室	2年	算数
58	鍵盤ハーモニカの練習でアプリを利用した。	低	児童	iPad	特支	音楽
59	「不思議図鑑をつくろう」校庭の植物の写真を撮る。	低	児童	iPad	4年	国語
60	「見つけたよ いろいろな春」外へ行き、春の花や生き物などを見つけた。	低	児童	ぼうけんくん	2年	生活
61	「学校あんないをしよう」1年生をつれて、校内を見て回った。	低	児童	ぼうけんくん	2年	生活
62	「写真をもとに話そう」木の写真を撮る	低	児童	ぼうけんくん	4年	国語
63	比較検討のとき、ぼうけんくんを使う。面積・体積などは使える。	低	児童	ぼうけんくん		算数
64	なわとびのフォームや入り方・出方の修正	低	児童	iPad	-	行事
65	「月と太陽」で、月の満ち欠けについてぼうけんくんを使って撮影した。	低	児童	ぼうけんくん		理科
66	「わが町ベストスリー」PowerPointで発表	低	児童	PC室	5年	国語
67	身の回りのものでかけ算を使って数をもとめられるのを探して撮影する。	低	児童	ぼうけんくん	2年	算数
68	NHK for School「オンマイウェイ」を使って意見文をかく	低	児童	PC室	5年	道徳
69	Tボール バッティングフォーム確認・修正	低	児童	iPad	5年	体育
70	Tボール 打ち方の動画を撮り、体育ノ介と比較	低	児童	iPad		体育
71	「学級新聞をつくろう」写真を撮る	低	児童	iPad	4年	国語
72	「体をめぐる血液とはたらき」メダカの尾びれの血液の流れを電子顕微鏡で映し、接眼レンズにぼうけんくんをあて、動画を撮影した。	低	児童	ぼうけんくん		理科
73	「跳び箱」動画を撮り、技のポイントの教えあい	低	児童	タブレットPC		体育
74	食料自給率 調べ学習 NHK for School 未来広告ジャパン	低	児童	タブレットPC	5年	社会

II 学年より

1. 研究主題について

ア 成果

- ・ICTを授業にとりいれることで主体的に学ぶ姿勢を育むことができた。
- ・学校図書館を活用することは意欲につながり、新しい知識を得る魅力的なとりくみであろう姿が見られた。2年生に素敵な読み聞かせを伝えたいという課題を解決しようとする意欲につながった。
- ・電子黒板で資料を拡大したり、手本を提示したりすることは、学習理解も深まり「わかる・できる」ことに結び付いていたように思う。

イ 課題

- ・ICTを活用することで、学習に対するとり掛かりやすさはあった。それよりも、本時でのねらいがぶれずに、発問を考えたり、学習の展開を組んでいったりすることが重要であった。ICTを生かす力が教員に求められる。
- ・一年生では、動画から改善点を見いだすことは難しかった。静止画でポイントを指摘し、細やかに伝えなければわかるにつながるに感じないと感じた。情報提示の制度を上げる必要性を感じた。

2. ICTや学校図書館の活用を通じた教材教具の工夫について

ア 成果

○国語

- ・資料を拡大し提示したり、大きな手本を提示したりしたことは、良い点、改善点が明確になり、半数の児童にはイメージを持たせることができた。
- ・2年生にお気に入りの本を紹介しようと読み聞かせを設定したことで本文を上手に読もうとする姿や、すてきな絵本を見つけて上手に読もうとする姿が見られた。さらに、学級内で手に取った絵本を使って、読み聞かせの練習をする児童もいた。

○算数

- ・ICTを活用することで、課題を理解しやすかった。
- ・ぼうけんくんで友達の考えを提示することは、新しい考えとの出会いとなった。

イ 課題

○国語

- ・物語文での、ICTの活用方法を再考する必要がある。
- ・読める本に限界があるので、範囲を絞って貸し出しを促す必要がある。写真や絵だけを見ていた児童もいた。
- ・学校外からも本を借りて、魅力ある学習活動を計画できなかった。

○算数

- ・比較検討に時間がかかり、児童の考えをあまり紹介できなかった。理解を深めるために、適用問題をもっと数多く考えさせたかった。
- ・考えを説明するときに、ICTだけでなく黒板で提示できる具体物があると、より分かりやすかった。

III 資料

読みの手本の提示



挿絵の拡大 (パワーポイント)



並行読書

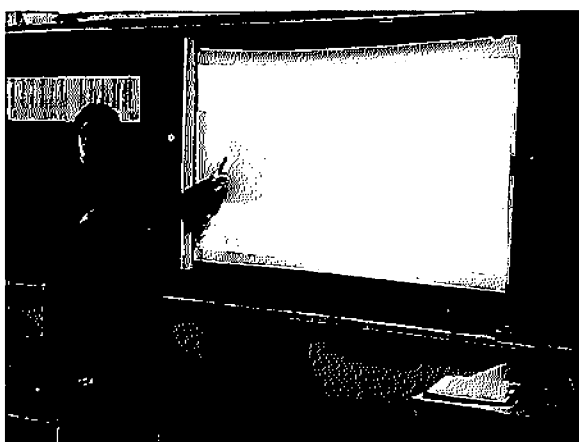


読み聞かせの練習

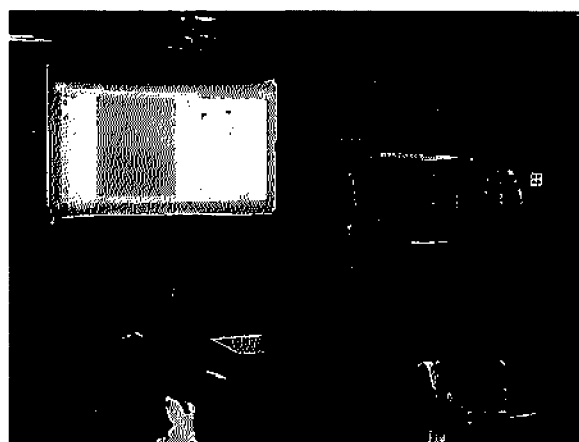


IV ICT・図書館活用の資料

ぼうけんくんで考えの共有



デジタル教科書の活用



II 学年より

1. 研究主題について

ア 成果

- ・アンケート結果で、「ICTを活用する授業が好きである」ことが多数だったこともあり、実際の授業でも意欲的にとりくむことができた。
- ・ICTを活用することで、児童の学習意欲や集中力が高まった。
- ・児童は、積極的にデジタル教科書などを操作して発表することができた。
- ・デジタル教科書やipadを活用した授業を取り入れることで、進んで授業に取り組んだり、授業を楽しみにしていたりする児童が増えた。

イ 課題

- ・ICT活用方法で、どの部分で使用するとより効果的なのかを整理する必要がある。必ずしも使うことを重点に置くのではなく、効果的な方法を探したい。
- ・ワークシートの工夫が必要。
- ・三角形と四角形の概念をしっかりと捉えさせてから仲間分けをしたほうが、児童も活動へとり掛かりやすかった。
- ・児童の様々な考えを提示して、全体で考えを共有する際にぼうけんくんを使用したほうがより効果的だった。

2. ICTや学校図書館の活用を通じた教材教具の工夫について

ア 成果

○国語

- ・おもちゃ作りでは、ipadで好きなタイミングで動画を止めたり、巻き戻したりすることができたのでスムーズに作ることができた。
- ・説明書を書くときにも、繰り返し見ることができるので書くときの助けになった。
- ・音声を入れるか、入れないか実態に応じて選べるので授業の幅が広がった。

○算数

- ・デジタル教科書を用いて、全体で確認をしたり操作をしたりすることで、共通理解をすることができた。
- ・図形に苦手意識がある児童でも、アニメーションをヒントに答えを導き出すことができた。

イ 課題

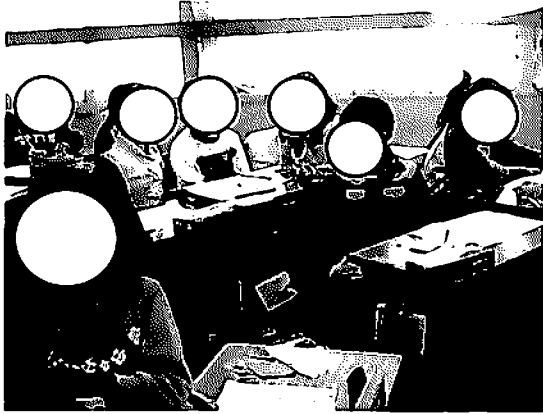
○国語

- ・ipadに慣れていないと、操作に夢中になってしまう。
- ・本で調べる、試行錯誤して作るなどの手間がかかることも経験させたい。

○算数

- ・ICTを使用する時も、実際に触って考えられる具体物も用意しておく。
- ・児童がICTを操作する場面があっても良かった。

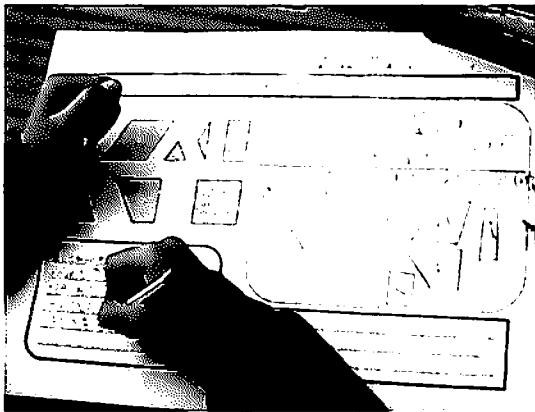
III 資料



ペアトークの様子



デジタル教科書の活用



ワークシートの記入



自力解決時の様子

IV ICT・図書館活用の資料



iPad の活用



図書館活用

II 学年より

1. 研究主題について

ア 成果

- ・ICTや学校図書館の活用により意欲が向上し、わかろうとする気持ちが育まれた。
- ・ICTの利用により、学習への理解が深まった。
- ・ICTだけでなく具体物を使用することで、より視覚的に伝えることができた。

イ 課題

- ・教員主導でのICT活用が多かったので、児童主導でも使えるようにしたい。
- ・意欲だけでなく、より効果を上げるためにも日常的にICTを取り入れることが必要である。
- ・ICTの効果的な使い方や、ぼうけんくん、ipadなどの操作を教員が知っておけばより効果的に使える。

2. ICTや学校図書館の活用を通じた教材教具の工夫について

ア 成果

○国語

- ・タブレットやぼうけんくんを使用することで、写真や動画を使用することができた。
- ・児童が自分で動画のインタビュー資料を作成することで、自信につながった。
- ・ICTを必ず活用するのではなく、選択肢の一つとして使うことができた。

○算数

- ・意見をとり上げられることが意欲の向上につながるので、継続的に行っていききたい。
- ・ぼうけんくんを用いて児童の考えを写すことで、視覚的に全体で共有することができた。自分の考えも写してもらいたいと意欲が向上する姿が見られた。
- ・児童の考えを見易く提示し、具体物も使用したことでより理解が深まった。

イ 課題

○国語

- ・タブレットの操作は少しできるようになったが、何かあった時の対応に教員が追われることがあった。
- ・調べ学習での場で、ローマ字入力ができることよりスムーズに学習が進む。
- ・パソコンでの調べ学習が中心となり、本をもう少し活用できると良かった。

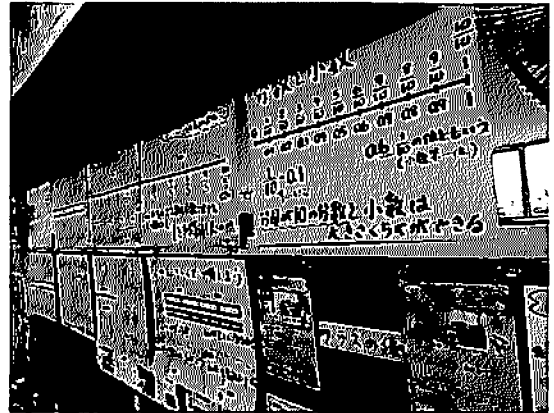
○算数

- ・単位分数としての考え方の理解をもっと深めたかった。
- ・多様な考えを提示したが、どの考えが一番いいのかの押さえ方が甘かった。
- ・具体物を拡大してぼうけんくんで提示すると、具体物も更に活かされた。

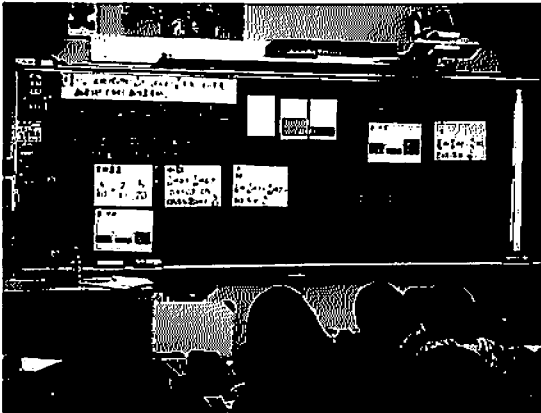
III 資料



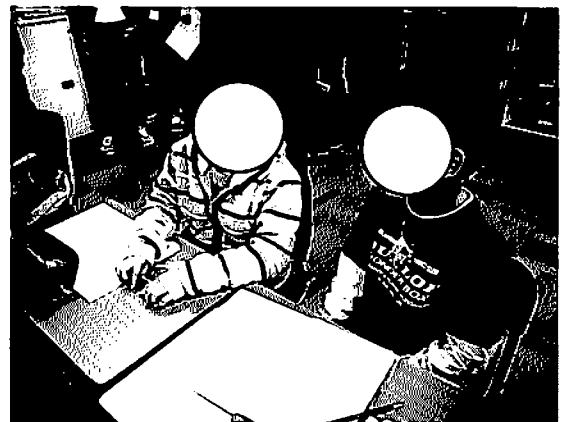
具体物の使用



学習過程がわかる掲示物



児童の考えを予想し、出た意見を掲示

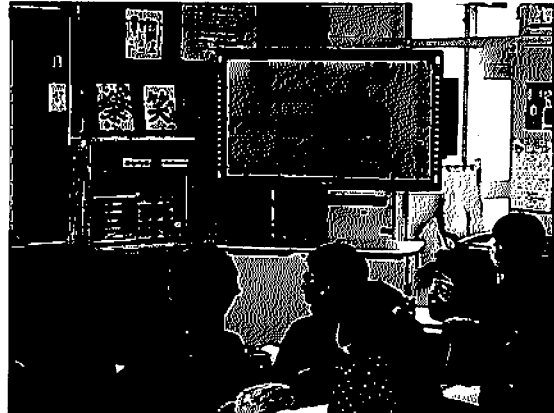


ペアトーク

IV ICT・図書館活用の資料



ぼうけんくんの活用



デジタル教科書の活用

II 学年より

1. 研究主題について

ア 成果

- ・ICTを使うことによって意欲が増し、主体的な学びに結びつけることができた。
- ・一年を通していろいろな角度からICTを活用することによって、子どもたちが発表や検索の手段としてICTを選択することができるようになり、学習の幅が広がった。
- ・学校図書館指導員との連携により、普段の授業から本を手にとって調べたり、伝え合ったりする活動を展開できた。

イ 課題

- ・学校図書館の活用については、指導員にお願いすることが多く、担任は受け身になりがちだった。
- ・ICTの不具合に対応しきれなかった。

2. ICTや学校図書館の活用を通じた教材教具の工夫について

ア 成果

○国語

- ・コラボノートを使用したことによって、自分の意見に自信が持てない児童が、自信を持って自分の意見を書き込むことができた。
- ・提示しながらの発表では、時系列の発表だったが、発表の順番に書いたのではなく、書いた中から順番を考えるなど施行する場面が見られた。
- ・紙では行いづらい「消す」作業が多く見られ、より自分の意見をまとめようとする姿が見られた。

○算数

- ・One Note を使ったことで子どもたちが意欲的に学習に取り組んだ。
- ・One Note を活用し、簡単に意見を共有したり、自分の意見を何度も書き換えながら考えを深めることができた。

イ 課題

○国語

- ・コラボノートに何を書くか理解することが難しかった。
- ・字の色や大きさがまちまちになってしまい、そのことに時間を使ってしまう児童が見られた。
- ・書き込むことに集中して時間がかかり、思ったよりも発表に時間を取るができなかった。

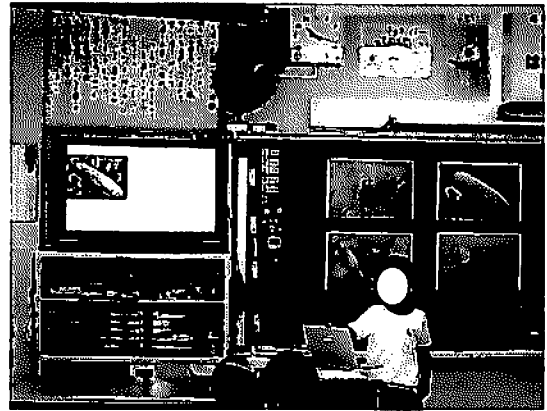
○算数

- ・一人ひとりのページを作成しておくなどの準備に少し時間がかかるので、慣れるまでは大変だった。
- ・自分の考えが残らないので、印刷するなどの手段が必要になってくる。

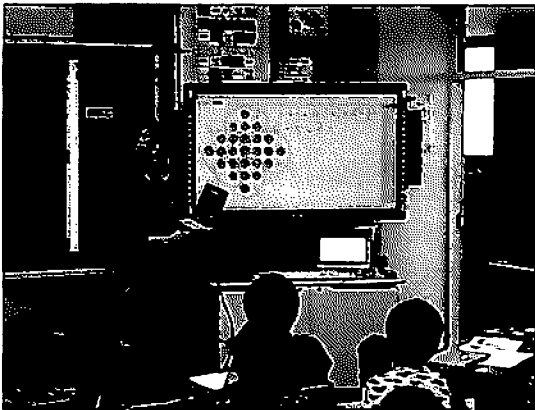
III 資料



コラボノートへの手書きの書き込み



コラボノートを使っでの発表



One Note を活用した意見の共有



One Note を使ったグループでの意見交換

IV ICT・図書館活用の資料



他学年へのブックトーク



コラボノートでの新聞づくり

II 学年より

1. 研究主題について

ア 成果

- ・「ロイロノート」は、簡単にスライドを作ることができるので、児童が主体的に学習に参加することができていた。
- ・発表では、観点を設け内容を考え、スライドを作ることで本時のめあてや今回の学習の目標に迫ることができていた。
- ・シンキングツールや ICT, 反転学習は児童の「わかる・できる」に繋がっていた。
- ・発表では、本時の授業以外にインタビューの時間などを設けることで児童の学習の幅が広がった。

イ 課題

- ・「ロイロノート」での共有部分である「トンネル」機能を有効活用できれば、児童の作りやすさがあったと思う。
- ・反転学習では家庭差があり、改善が必要。

2. ICTや学校図書館の活用を通じた教材教具の工夫について

ア 成果

○国語

- ・学習の目標を明確にすることで、児童が意欲的に学習にとりくむ事が出来ていた。
- ・観点シートを設けたことで、話し合いが活発に行われていた。
- ・「ロイロノート」では修正が簡単なので、すぐに直すことができていた。

○算数

- ・「ぼうけんくん」で撮影した考えを提示することで、比較検討しやすかった。
- ・電子黒板を用いることで友だちの考えを参考にして、自分の考えに修正を加えることができていた。

イ 課題

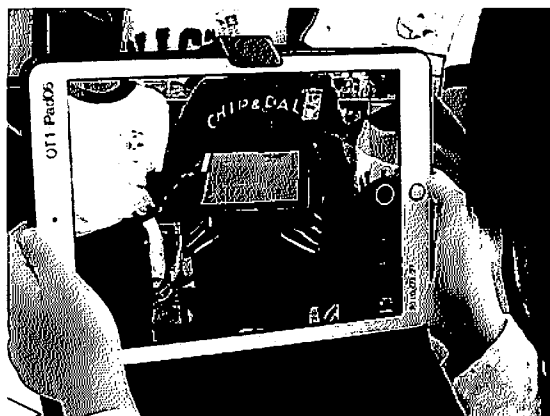
○国語

- ・学級内でアドバイスをを行うのではなく、学年対抗など児童がアドバイスをしたいと思えるような環境を作らなければならなかった。
- ・アドバイスの求め方では、「アドバイスをください。」ではなく、「こんな基準で作ったので、アドバイスをください。」など基準と絡めた依頼の仕方が必要であった。

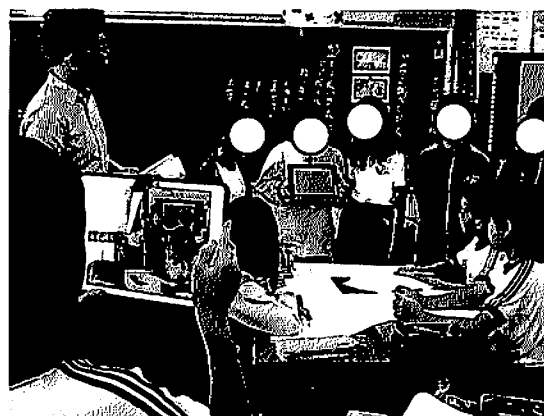
○算数

- ・グループトークの際に、話し合う焦点をはっきり示す必要があった。
- ・複数の考えを掲示した際に、どの考え方が最適なのかを図に書き込みながら説明する必要があった。

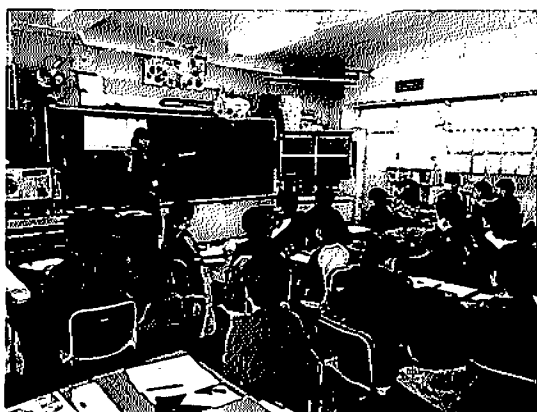
III 資料



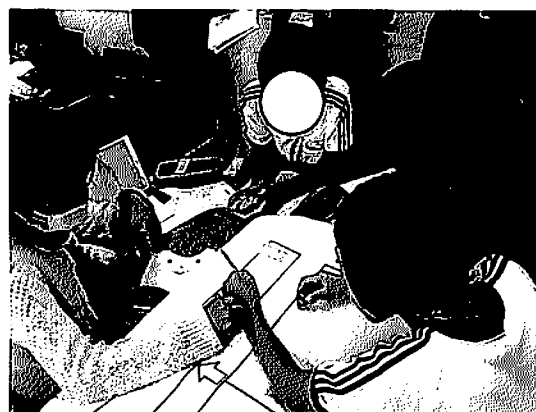
撮影の様子



発表の様子



「ぼうけんくん」の拡大表示

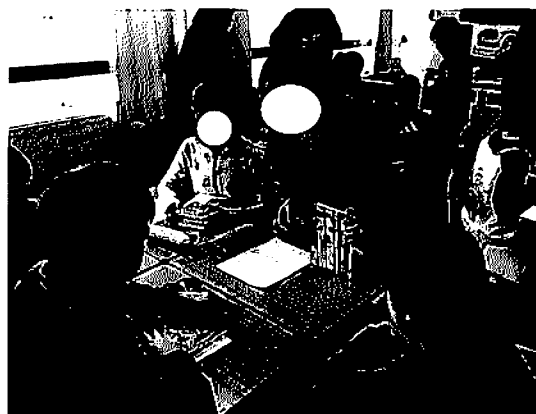


PMIシートの活用の様子

IV ICT・図書館活用の資料



「スカイプ」の活用の様子



ビブリオバトルの様子

II 学年より

1. 研究主題について

ア 成果

- ・デジタル教具とアナログ教具の両方を使用したことで、考えが深まり児童の理解につながった。
- ・導入を動画で工夫したことにより、課題を解決したいという意欲を高めることができた。
- ・単元のねらいを明確にしていたことで、相手意識を持ってとりくむことができていた。

イ 課題

- ・既習事項をしっかりおさえた状態で展開へ進むべきであった。
- ・底面積に着目できるような発問をすべきであった。
- ・マッピングに対して明確なアドバイスができるように、事前の指導が必要だった。

2. ICTや学校図書館の活用を通じた教材教具の工夫について

ア 成果

○国語

- ・NHK for school の動画を活用し、物語の展開をわかりやすくするには、どの場面も構成には必要だということが分かりやすく伝えられた。
- ・iPad で撮影した写真は拡大操作がしやすいので、見てほしいポイントをしぼることができた。
- ・図書館指導員に一年生にもわかりやすい本を用意してもらい、並行読書することで一年生に伝わりやすい本の内容や構成についてのイメージを広げることができた。

○算数

- ・導入にオリジナル動画を使用したことで、児童の意欲が高まっただけでなく、本時のねらいを明確化させることができた。
- ・児童の考えをぼうけんくんで示したことで、児童の考えが全体に共有しやすかった。

イ 課題

○国語

- ・図書館指導員に紹介してもらった本をいかして、一年生にわかりやすいように物語の展開を工夫することが難しかった。児童の伝えたい内容をファンタジーのような展開にするような声かけもあってもよかった。

○算数

- ・ぼうけんくんで児童の意見を取り上げた際に式の立て方がわかりやすいよう、色分けすると良かった。
- ・電子黒板が見えにくい席もあったため、配慮が必要であった。

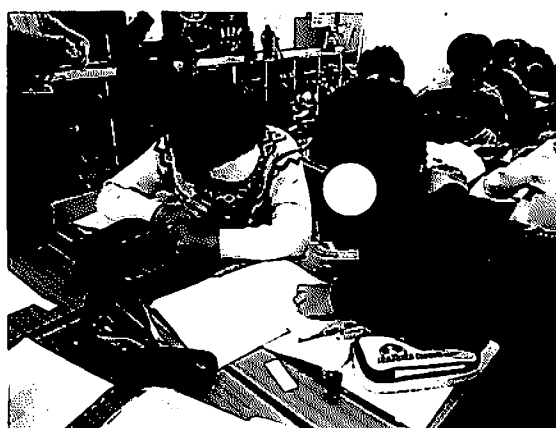
III 資料



グループトークの様子



ぼうけんくんによる発表の様子

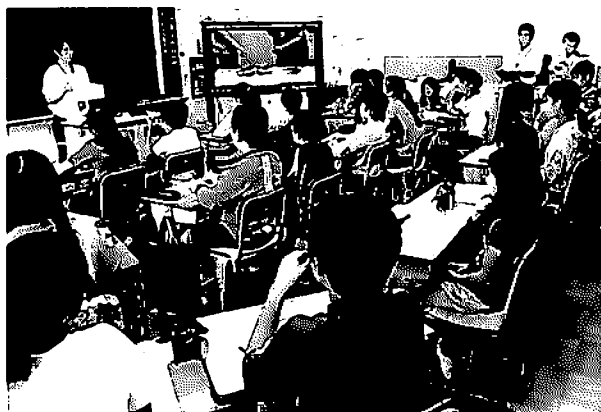


マッピングへのアドバイスの記入



一年生への読み聞かせ

IV ICT・図書館活用の資料



オリジナル動画による導入の活用



iPad の活用

Ⅱ 成果と課題

ア 成果

- ・授業でプラズマ電子黒板の操作の仕方が学習できた。
- ・自分の発表だけでなく、友だちの発表に耳を傾けることが少しずつできるようになった。
- ・授業の中の全体で学習する場面、ペアで学習する場面の双方とも、各々とりくむことができた。
- ・一人ひとりの個性や実態に応じて課題を設定し、意欲的に課題にとりくめた。

イ 課題

- ・課題のとりくみに時間を要する児童への有効な支援の方法を考える必要がある。
- ・授業の中での児童支援の際の教員と支援員との有効的な連携の仕方を考える必要がある。

Ⅲ 資料

知的障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校

第1 各教科の目標及び内容

[生活]

1 目標

日常生活の基本的な習慣を身に付け、集団生活への参加に必要な態度や技能を養うとともに、自分と身近な社会や自然とのかかわりについて関心を深め、自立的な生活をするための基礎的能力と態度を育てる。

2 内容

○1 段階

- (1) 日常生活に必要な身辺処理を求めたり、教員と一緒に رفتったりする。
- (2) 教員と一緒に健康で安全な生活をする。
- (3) 教員や友だちと同じ場所で遊ぶ。
- (4) 教員と一緒に身近な人に簡単なあいさつをする。
- (5) 教員と一緒に集団活動に参加する。
- (6) 教員と一緒に簡単な手伝いや仕事をする。
- (7) 教員と一緒に日常生活の簡単なきまりに従って行動する。
- (8) 教員と一緒に日課に沿って行動する。
- (9) 教員と一緒に簡単な買い物をする。
- (10) 身近な自然の中で、教員と一緒に遊んだり、自然や生き物に興味や関心をもったりする。
- (11) 家族や家の近所などの様子に興味や関心をもつ。
- (12) 身近な公共施設や公共物などを教員と一緒に利用する。

○2 段階

- (1) 教員の援助を受けながら日常生活に必要な身辺処理をする。
- (2) 教員の援助を受けながら健康で安全な生活をする。
- (3) 教員や友だちと簡単なきまりのある遊びをする。
- (4) 教員の援助を受けながら身近な人にあいさつや話をするなどのかかわりをもつ。
- (5) 集団活動に参加し、簡単な係活動をする。
- (6) 教員の援助を受けながら簡単な手伝いや仕事をする。
- (7) 日常生活に必要な簡単なきまりやマナーに気付き、それらを守って行動する。

- (8) 教員の援助を受けながら日課に沿って行動する。
- (9) 決まった額の買い物をして、金銭の必要なことが分かる。
- (10) 身近な自然の中で遊んだり、動植物を育てて自然や生き物への興味や関心を深める。
- (11) 家族の役割や身近な地域の様子に興味関心をもち、自分と家庭や社会の関わりに気付く。
- (12) 教員の援助を受けながら身近な公共施設や公共物などを利用する。

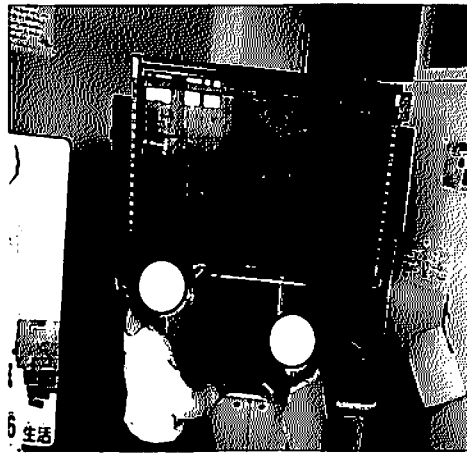
○3段階

- (1) 日常生活に必要な身辺処理を自分でする。
- (2) 健康や身体の変化に関心をもち、健康で安全な生活をするように心掛ける。
- (3) 友だちとかかわりをもち、きまりを守って仲良く遊ぶ。
- (4) 身近な人と自分とのかかわりが分かり、簡単な対応などをする。
- (5) 進んで集団生活に参加し、簡単な役割を果たす。
- (6) 日常生活で簡単な手伝いや仕事を進んでする。
- (7) 日常生活に必要な簡単なきまりやマナーが分かり、それらを守って行動する。
- (8) 日常生活でのおよその予定が分かり、見通しをもって行動する。
- (9) 簡単な買い物をして、金銭の取扱いに慣れる。
- (10) 身近な自然の事物・現象に興味や関心を深め、その特徴や変化の様子を知る。
- (11) 家庭や社会の様子に興味や関心を深め、その働きを知る。
- (12) 身近な公共施設や公共物などを利用し、その働きを知る。

IV 児童の様子

(6) 児童の様子

プラズマ黒板を利用しての学習



II 音楽科より

1. 研究主題について

ア 成果

- ・普段親しんでいる音楽と世界の音楽との共通点と相違点をグループでまとめる際、タブレットで繰り返し動画を見ることより、児童が主体的に鑑賞することができた。
- ・全体で鑑賞するときは電子黒板、グループで鑑賞するときはタブレットというように、ICT機器を状況に合わせて使用し、学習内容を深めることができた。

イ 課題

- ・タブレットを使用して主体的に鑑賞することはできたが、「わかる喜び」を実感させることは難しかった。
- ・まとめをして発表する世界の音楽をグループごとに分担したため、他のグループがまとめた音楽は、少ししか鑑賞することができなかった。

2. ICTや学校図書館の活用を通じた教材教具の工夫について

ア 成果

- ・タブレットに動画を取り込み、グループごとに鑑賞できるようにしたため、気になる部分や細かい部分まで鑑賞することができた。
- ・児童がICTの活用に慣れているために、スムーズに操作することができた。
- ・ロイロノートを使用し、グループでまとめたものを全体で共有しやすくなった。

イ 課題

- ・事前に確認はしていたが、電子黒板で動画を鑑賞する際、音声が出ず、対応に時間がかかってしまった。
- ・グループごとに鑑賞する際、それぞれのグループから出る音が混ざり、聴き取りにくいときがあった。
- ・授業時数と在庫の本の内容や冊数の関係で、図書館の活用はできなかった。

III 資料

電子黒板で鑑賞の様子



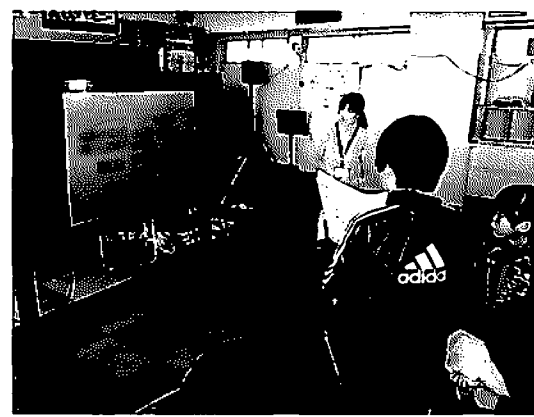
タブレットで鑑賞の様子



グループで話し合いの様子



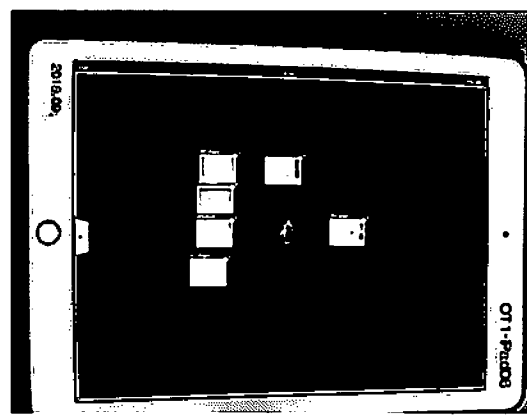
発表の様子



IV ICT・図書館活用の資料



タブレットの活用



iPad「ロイロノート」の活用

「スマホルール」配布について

平素より、本校の教育活動についてご理解・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。
現在、柏市ではスマホのトラブルが多く発生しています。そこで、本校の授業の一環で、以下「スマホのルール」を作りましたので各ご家庭に配布します。是非、本ルールを参考にいただき、お子さんのスマートフォンの方を含め、ご家庭のルールを考えていただけたらと思います。

大一小 スマホ使い方 10カ条

聞く時

1. 他の人にめいわくをかけません。
2. お家の人と決めた時間はしっかり守りましょう。
3. 歩きスマホや自転車スマホはやめよう。

買った直後

4. 設定はお家の人と決めましょう。
～セキュリティ編～
 - ・パスワードは他の人には教えません。
 - ・GPS は使う前にお家の人に相談しよう。
 - ・ペアレンタルコントロールをしてもらおう。～課金編～
 - ・課金はなるべくしない方がいい。したいときは、お家の人に制限をかけてもらう。
- ～いざという時～
- ・何かあるかもしれないから、充電をしておこう。

慣れてきたら

5. 秘密事をしません。困ったら、お家の人か先生に相談。
6. 送る側・受け取る側も相手を思いやり SNS を楽しもう。
7. 写真はむやみに送らない。許可をとることも必要。
8. 知らない人とは、連絡を取らない。来ても無視をする。
9. ワンクリック詐欺に注意する。来たら無視して相談する。
10. スマホの使い方をもう一度、チェックしよう。